



おばあちゃん見えますかー



国	籍	インドネシア
職	種	印刷
実習実施者		株式会社にしばた
監理団体		協同組合若越

サエプル アブドル アジズ
SAEPUL ABDUL AJIS

誰にも常に支えてくれる人がいます。例えばのびたはドラえもんがいて、ボッチにはカゲが一、私にとってはおばあちゃんでした。

私が大学を受験する時、学部を選択について両親と議論になりました。私の選択は日本文学部でした。私の選択をバカにする人もいました。「卒業したら何をするつもり？そういう専門と関係ある職業はあるのか」、「それより英文学部とか経済学部の方がいいんじゃない」って周囲からよく言われました。

それで自分の選択が心配になり、おばあちゃんにその事を話したら、「どんな学部でも一生懸命やれば、心配する事なんていない。将来は誰にも分からないんだから、今出来事は頑張るしかないんだよ」と言われました。その言葉のおかげで自分の選択に自信を持つことができました。4年生になり、卒業論文を書いていたある日、日本語の講師から電話がありました。「アジズさん、日本での技能実習生の面接があるので、ぜひ受けてみてください」。受験者は15人ぐらいもいましたが、私は3人の合格者の中に入りました。

嬉し過ぎておばあちゃんにすぐ電話しまし

た。おばあさんは嬉しそうに「やったね！とうとうお前が飛行機で海外に行くことになったんだ。いつ行くか決まったら教えてね。プレゼントもあるし、空港まで送っていかないと…」と言いました。卒業して日本へ行くことになった時、新型コロナウイルスのせいで日本入国が制限されたため出発スケジュールは未定でした。しかし、私の出発の日を待っていたおばあちゃんが突然病気になってしまいました。4月末に、6月に日本へ出発する日が決まりました。しかし、出発の1ヶ月前におばあちゃんが亡くなってしまいました。その日は泣くこともできず、胸が痛みました。出発日に、お姉さんがいきなり1万円くれて、「これはおばあちゃんが準備してくれていたものだよ。このお金は君が日本で困った時に使ってねと言っていたよ。大事に使ってね」と言いました。それを聞いて胸がいっぱいになり涙が止まりませんでした。

おばあちゃん、僕のこと見えますか。僕を空港まで送ってくれなくても、空の向こうから僕の夢見た日本にいることを見守っていてくれることを信じています。おばあちゃん、心配しないで！僕は料理もできるし、去年は大阪と京都まで1人で一週間旅行もしたよ。そして今、僕はまた新しい夢ができたよ。それは日本語の通訳者になることです。

おばあちゃん、僕は日本で働きながら日本語一生懸命勉強してます。いつもそばにいてくれてありがとうございます。

おばあちゃんからもらった一万円は、まだ使わずに大事に持っています。